

仙人通信 198 烏帽子岳(1363m)鬢櫛山(1350m)榛名富士(1390m)

烏帽子岳等は、榛名湖の北東部に連なる榛名山の山脈で、山の形がそれぞれの形に似ている事から命名されたとの事である。又榛名富士は、日本 200 名山であると共に一等三角点の山である。

湖畔の駐車場より、紅葉したモミジに映える烏帽子岳を見ながらのスタートである。

15 分程先のゆうすげ温泉郷の近くにある烏帽子岳登山口の標識からの入山である。

30m程進んだ先にある赤い鳥居を潜り、木々に捲かれたピンクのテープを頼りに小さな沢沿いを進む（このコースには道標が殆ど無く、テープを頼りの山登りとガイドにある）。

紅葉したモミジやカラマツの林で、カラマツの葉が風と共に顔に飛んで来て痛い。

眼下では、花びらを残したノギクや赤い実を付けたテナンショと秋の深まりを感じる。

登山口から 20 分程で烏帽子岳と鬢櫛山を結ぶ尾根にでる。道標に従い、右に 30m程進むと、石の狐様を両側に赤い大きな鳥居があり、その中央に加護丸稲荷とある。

ここからは、烏帽子岳山頂に向かいコースの片側にロープが張られた北面の登りである。最近の登山者が居ないのであろう、周囲のブナやミズナラの落葉が自然石のステップを埋め尽くしている。それらを除き足元の確保をしながら登る。因みに烏帽子岳の下部には、火口が確認されており、噴き出した安山岩のようだ。25 分程で大きな岩の洞の中に、先程のお稲荷さんが祀られていた。この祠の左側を 10m程登る。

その先は、葉の周囲が白いミヤコザサで覆われた緩やかな登りとなり、5 分程で山頂の標識だ。梢越しではあるが榛名湖・榛名富士・相馬山・ニッ岳が望める。休憩後 15 分程で、先程の分岐に戻り、鬢櫛山に向かう。緩やかなコースを20分程で鞍部となり、ブナやミズナラのキツイ登りを進むと、石のある展望台の様なポイントで、ここからは櫛の上部の様な丸みのある尾根となる。30 分で山頂であるも烏帽子山同様梢越しの展望だ。ここから榛名湖側は檜林の尾根となり、25 分程で湖畔に辿り着くことが出来た。

車をロープウェイの近くの駐車場に移し、ロープウェイを使い榛名富士山頂に向かう。

山頂駅の展望台と山頂の展望台からは、掃部ヶ岳・杏ヶ岳(仙通 76) や相馬山(仙通 142)そしてニッ岳までの榛名の山が望める。

榛名山は、那須火山帯の最南端の火山であり、当初は富士山に似た円錐形の山で、海拔 2500 m程の火山で有ったらしい。その後爆発的崩壊を繰り返し、カルデラの上に現在の山容が形成され、6 世紀にニッ岳や水沢山が出来たそうである。そんな榛名の全景を楽しんだ後、山頂駅近くの登山道を梢越しではあるが、榛名湖や掃部ヶ岳を望みながら 40 分程で車に戻った 3 時間 55 分(14000 歩)のノンビリした山旅でした。 (R1. 11. 12)

湖畔から榛名富士 湖畔から烏帽子岳 烏帽子岳山頂 榛名富士展望台から

